

日本地球掘削科学コンソーシアム 2022年度定例総会

開催日時:2022年5月16日(月)14:00~17:00

開催方法:オンライン開催(Zoom)

議事次第(案)

1. 会議成立の確認
2. ウェブ会議の進め方説明
3. 議長選任
4. 議事次第(案)確認・承認
5. 2021年度活動報告
 - (1) 理事会活動報告(会長)資料1
 - (2) IODP部会活動報告(IODP部会長)資料2
 - (3) ICDP部会活動報告(ICDP部会長)資料3
6. 2021年度決算報告・監査報告(財務担当理事・監事)資料4
7. 2022年度執行体制報告資料5
8. 2022年度活動方針案審議
 - (1) J-DESC活動方針案(会長)資料6
 - (2) IODP部会活動方針案(IODP部会長)資料7
 - (3) ICDP部会活動方針案(ICDP部会長)資料8
9. 2022年度予算案審議資料9
10. その他
 - (1) J-DESC会員機関現状報告資料10
 - (2) その他
11. 議長解任
12. 会長挨拶

配付資料

- | | | | |
|-----|-------------------|------|-------------------------|
| 資料1 | 理事会 2021年度活動報告 | 資料6 | J-DESC 2022年度活動方針案 |
| 資料2 | IODP部会 2021年度活動報告 | 資料7 | IODP部会 2022年度活動方針案 |
| 資料3 | ICDP部会 2021年度活動報告 | 資料8 | ICDP部会 2022年度活動方針案 |
| 資料4 | 2021年度収支決算書・監査報告 | 資料9 | 2022年度予算案 |
| 資料5 | 2022年度執行体制 | 資料10 | J-DESC 会員リスト(2022年5月時点) |

2022年5月16日

日本地球掘削科学コンソーシアム
理事会 2021 年度活動報告

日本地球掘削科学コンソーシアム理事会

2021年度の理事会の活動概要について、下記の通りご報告いたします。

理事会の活動の推進	
<p>(活動概要) 定期的に理事会を開催し、組織運営、対外活動、研究推進、広報教育などの重要事項を審議・決定した。IODP・ICDP両部会と連携して決定事項を効果的に遂行した。</p>	
理事会の開催状況	
第1回：2021年6月30日	第7回：2022年3月23日
第2回：2021年8月16日	第8回：2022年5月13日
第3回：2021年9月9日	
第4回：2021年10月21日	
第5回：2021年12月17日	
第6回：2022年2月7日	
備考：Web会議で約2時間開催	
総務	
<ul style="list-style-type: none"> ・安定的な組織運営、理事会と両部会執行委員会との効率的な分担を行った。 ・COVID-19の感染拡大を受けて対面での接触を減らし効率的な選挙運営を行うべく、選挙規約の改定を行い、電子投票を可能とした。 ・ウェブサイト、メールニュース等を通じて会員への各種情報提供を行った。 ・国際的なプレゼンスを高め、科学コミュニティの活性化を図るため、国連海洋科学の10年への参画を検討し、イベント情報の登録およびContributionの申請を行った。 	
<p><今後の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員の輪を広げるための制度設計及び実現へ向けた取組。 	

- ・会員や学生への支援策など J-DESC が実施するサービスに関する情報のよりわかりやすい発信。具体的には J-DESC ホームページのリニューアルを行う。
- ・将来の掘削科学を担う人材及び一般への認知度拡大を含めた組織活性化。

科学戦略

- ・2020年に発行された海洋科学掘削 2050 サイエンスフレームワークおよび、その中でも J-DESC コミュニティが重点を置く内容をハイライトした J-DESC 版のパンフレットをホームページに公開するなど、今後の海洋科学掘削に係る方向性を会員および科学掘削コミュニティに示した。
- ・海洋掘削に関しては、2024年に現行の IODP の枠組みが終了することを受けて、その後の枠組みについての議論が始まっている。この転換期に日本のプレゼンスを発揮できるよう、地球深部探査船「ちきゅう」と高知コアセンターの継続的な運用について述べた、「地球システムの理解に向けた国際海洋科学掘削研究の推進（要望書）」を、文部科学省、海洋研究開発機構（JAMSTEC）、高知大学に提出した。
- ・国際陸上科学掘削計画（ICDP）への参画に関する MoU が、2022年3月に期限を迎えることから、引き続き我が国が参画できるよう、「国際陸上科学掘削計画（International Continental Scientific Drilling Program（ICDP））への参加について（要望書）」を JAMSTEC に提出する等、対応を行った。
- ・Post-IODP に係る情報共有と将来を見据えて日本の掘削科学コミュニティが取り組むべき課題、新たな掘削プロポーザル提案に向けた準備などについて検討するためのワークショップをオンラインで開催した（「Post-IODP 時代へ向けた科学海洋掘削の展望」3月3-4日開催）。
- ・日本地球惑星科学連合 2021年大会での「地球掘削科学」セッションを提案し、実現した。

<今後の課題>

- ・海洋科学掘削 2050 サイエンスフレームワークの実現に向けて、Post-IODP で取り組むべき科学テーマの検討を行う。
- ・「地球システムの理解に向けた国際海洋科学掘削研究の推進（要望書）」の英語版を作り、国際的にも J-DESC の取り組みを発信する。

<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の情勢変化を分析し、積極的・効果的なコミュニティへの情報展開を図る。
財務
<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度予算を執行し、決算報告を行った。J-DESCの財政及び活動方針を踏まえ、適切な予算案策定を行った。 ・COVID-19対策により様々な活動が限られている中、効果的な予算運用を行った。 ・前年度から引き続きWeb会議の活用により大幅な経費節減を行った。 <p><今後の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来的な収入維持・増加へ向けた対応策の検討
外務
<ul style="list-style-type: none"> ・Post-IODPのプログラムに関して、わが国が国際的なプレゼンスを発揮しリードしていけるよう、JAMSTECと協力して、欧州海洋研究掘削コンソーシアム（ECORD）と連携に関する会合を進めた。 ・COVID-19禍の中、IODP及びICDP関連の国際会議、ワークショップ等にJ-DESC役員や国内研究者のオンライン参加を促し、積極的な対外活動を行うとともに、収集した各種情報を研究コミュニティへ展開した。 <p><今後の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・COVID-19対策のために国際会議の対面会議が制限される中、国内外の情勢変化を分析し、積極的・効果的なコミュニティへの情報展開を図る。 ・Post-IODPにおける国際連携の枠組みを再構築する必要がある。
広報・教育

- ・初めての SCORE 教育乗船枠の航海を、IODP 部会、JAMSTEC と協力して実施した。
- ・一般への理解増進のため、J-DESC 主催のシンポジウム「地球掘削科学の近未来の課題：人新世の未来に向けて」を3月14日に東京で実施し、オンラインで配信した。また、シンポジウムで上映する、掘削科学の取り組む課題を紹介する映像コンテンツの制作を行った。制作した映像は今後、学会や授業等で活用していく。
- ・日本地球惑星科学連合の大会にオンラインでのブース出展を行った。出展者セミナーや動画の工夫により多くの方に視聴いただけた。
- ・日本地質学会の大会について誌面出展を行い、学会参加者、特に若い世代に向けての掘削科学の紹介を行った。
- ・毎年発行している J-DESC ニュースレターについて、若い世代にも読んでもらうことを念頭に制作を行った。また、レイアウトの変更等を試み、よりわかりやすい情報発信に努めた。
- ・掘削科学の魅力や J-DESC 及び掘削科学に係る情報について、ホームページや SNS 等を活用して情報発信を行った。昨年開設した YouTube の J-DESC チャンネルについては、コンテンツの充実を図った。

<今後の課題>

- ・ COVID-19 禍が長引く中、オンラインを活用した教育プログラムの実施等、次世代の育成に係る施策を実施する。
- ・掘削科学の裾野拡大のための若い世代への情報発信を推進する。
- ・一般の理解増進やコミュニティの活性化を図るために、ワークショップやシンポジウム等をコンスタントに計画、実施する。
- ・映像コンテンツの英語版を制作し国際にも発信する。

2022年5月16日

日本地球掘削科学コンソーシアム

IODP 部会 2021 年度活動報告

IODP 部会執行委員会

2021 年度の IODP 部会の活動概要について、下記の通りご報告いたします。

部会活動の推進・総務関連
IODP 部会執行委員会の活動
(活動概要) IODP 部会規約に従い、必要に応じて執行委員会を適宜開催し、重要事項の検討を行い、理事会に報告した。
執行委員会の開催状況
第 1 回：2021 年 8 月 3 日
第 2 回：2021 年 10 月 8 日
第 3 回：2022 年 1 月 26 日
第 4 回：2022 年 4 月 27 日
専門部会等
掘削航海専門部会
・IODP 掘削航海の J-DESC 乗船応募者の評価をメールベースで行った。2021 年度の航海および応募者・乗船者一覧は別表 1 参照
科学推進専門部会
・IODP Science Evaluation Panel の候補者リストを更新し、SEP 委員選定を支援した。 ・SCORE 掘削提案について、のべ 8 件の評価を行った。 ・SCORE 教育乗船枠の応募者 12 名の評価を行った。また、教育乗船枠の評価方法や募集要項の改訂に協力した。
マントル掘削ワーキンググループ
・ワーキンググループの会合を 5 回、ワーキンググループ主催のオンラインセミナーを 6 回実施した。セミナーのうち 1 回は海外からの登壇者を招き、国際的な交流を図った。 ・ワーキンググループにて将来のマントル掘削に向けて行ってきた議論の内容を含め、マントル掘削について、月刊地球/号外（海洋出版株式会社）の特集号「海洋科学掘削によるマントル到達への挑戦—地球最大のフロンティア

に挑むー」にまとめ、出版した。
科学戦略関連
健全で活力ある科学コミュニティの維持・拡大
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2020 年に発行された海洋科学掘削 2050 サイエンスフレームワークおよび、その中でも J-DESC コミュニティが重点を置く内容をハイライトした J-DESC 版のパンフレットをホームページに公開するなど、今後の海洋科学掘削に係る方向性を会員および科学掘削コミュニティに示した。 ・ 理事会と協力して、「地球システムの理解に向けた国際海洋科学掘削研究の推進（要望書）」を、文部科学省、海洋研究開発機構（JAMSTEC）、高知大学に提出した。 ・ Post-IODP に関する情報共有及び今後の掘削提案について議論を行うワークショップ「Post-IODP 時代へ向けた科学海洋掘削の展望」を実施し、若手研究者を含む国内コミュニティの活性化を図った。 ・ J-DESC 会員をはじめとする国内研究者コミュニティに対する SCORE の周知活動を強化し、SCORE への掘削提案を奨励した。
新たな科学アイデアの発掘・育成や、新規掘削提案の作成・強化支援
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本地球惑星科学連合 2021 年大会で「地球掘削科学」セッションを開催した。 ・ 日本地球惑星科学連合 2022 年大会へのセッション提案を行った。 ・ 専門部会を活用し、提出前の新規掘削提案の支援（新 j-watch 体制等）を引き続き運用した。
財務関連
年度予算の策定・運用
<ul style="list-style-type: none"> ・ IODP 部会の活動予定を踏まえ、適切な年度予算を策定し、限られた予算の効果的な運用を行った。 ・ Web 会議の活用により大幅な経費節減を行った。
外務関連
IODP に関わる対外的な活動および支援
<ul style="list-style-type: none"> ・ Post-IODP のプログラムに関して、理事会及び JAMSTEC と協力して、欧州海洋研究掘削コンソーシアム（ECORD）と連携に関する会合を進めた。 ・ SEP 等のパネル委員の公募、推薦を行った。 ・ SEP (Science Evaluation Panel)、JOIDES Resolution Facility Board、ECORD Facility Board、IODP Forum の 4 種類の IODP 国際会議に委員・オブザーバー

<p>として出席した。</p> <p>IODP に関する会議開催実績は別表 2 を参照</p>
<p>広報・教育関連</p>
<p>新規活動の創出・企画の検討</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・他機関が主催する地球掘削科学に関するスクール等への参加支援制度を策定した。 ・IODP 航海に応募する大学院生の評価、支援についての検討を開始した。
<p>学会等における広報活動</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・理事会と協力し、日本地球惑星科学連合 2021 年大会にてオンライン展示に出展した。特に、今年度実施した IODP Exp. 386 とマントル掘削 WG が主導して行った出展者セミナーは好評であった。 ・理事会と協力し、日本地質学会の大会について誌面出展を行い、学会参加者、特に若い世代に向けての掘削科学の紹介を行った。
<p>若手育成・研究コミュニティの底辺拡大</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度策定した SCORE 教育乗船枠制度による大学院生の乗船を初めて実施した。IODP 航海へのステップアップとして掘削航海による研究を経験する良い機会になったと考えられる。実施を受けて明らかになった課題について、制度の改善を行った ・昨年度に策定した高知コアセンターでのレガシーコアサンプリングのための学生旅費支援制度の運用を開始した。 ・コアスクールは開催準備を行ったものの、COVID-19 の影響により中止とせざるを得なかった。
<p>出版物等</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・J-DESC Newsletter vol. 14 (日本語) 電子版発行 ・J-DESC Newsletter vol. 15 (日本語) 電子版の発行に向けた原稿準備
<p>その他普及活動・アウトリーチ</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・メールニュース「J-DESC Update」による各種最新情報の提供 ・J-DESC ホームページ及び Facebook ページの効果的活用 ・YouTube J-DESC Channel への協力 ・関係機関による IODP 航海やその研究成果に関するプレスリリースへの協力

2021年度の航海および応募者・乗船者一覧

#	航海名	プロポーザル	実施期間 (予定)	出港/入港	乗船者/ 応募者	乗船決定者	備考
---	-----	--------	--------------	-------	-------------	-------	----

JOIDES Resolution (JRSO)

395	Reykjanes Mantle Convection and Climate	892-Full2 & 892-Add	2021/6/6-8/6	Reykjavik to Reykjavik, Iceland	1名/1名	*鈴木 拓馬 (島根大学) * Onshore Science Party Only	航海終了
396	Mid-Norwegian Continental Margin Magmatism	944-Full2/944-Add2	2021/8/6-10/6	Reykjavik to Reykjavik, Iceland	2名/2名	*・中岡 礼奈 (神戸大学) ・SAYANTANI CHATTERJEE (新潟大学) * Onshore Science Party Only	航海終了
391	Walvis Ridge Hotspot	890-Full2 & 890-Add	2021/12/6-2022/2/5	Cape Town to Cape Town, South Africa	2名/3名	・久保田 雄介 (東京工業大学) *曾川 裕 (山口大学) * COVID19 によるスケジュール変更のため、辞退	航海終了
392	Agulhas Plateau Cretaceous Climate	834 Full-2 & 834-Add	2022/2/5-4/7	Cape Town to Cape Town, South Africa	2名/5名 (追加募集) 1名/1名	**市山 祐司 (千葉大学) **加藤 知恵 (九州大学) * 守屋 和佳 (早稲田大学) * COVID19 によるスケジュール変更のため、辞退 **COVID19 のため陸上メンバーに変更	航海終了
390	South Atlantic Transect	853-Full2 & 853-Add	2022/4/7-6/7	Cape Town, to Cape Town, South Africa	3名/5名 (追加募集) ①1名/1名 ②1名/1名	・相澤 正隆 (琉球大学) * 柿崎 喜宏 (東京大学) * 本村 直人 (千葉大学) ** 土井 信寛 (千葉大学) ・高田 真子 (東京大学) * COVID19 によるスケジュール変更等のため、辞退 ** COVID19 のため陸上メンバーに変更	航海中

393	South Atlantic Transect	853-Full2 & 853-Add	2022/6/7-8/7	Cape Town, to Cape Town, South Africa	2名/3名	<ul style="list-style-type: none"> ・桑野 太輔 (千葉大学) * 吉岡 純平 (東京大学) **・Man-Yin Tsang (神戸大学) * COVID19 によるスケジュール変更のため、辞退 **US 枠→日本枠に変更→個人都合により辞退 	乗船者決定済
397	Iberian Margin Paleoclimate	771-Full2	2022/10/11-12/11	Lisbon, Portugal to Tarragona, Spain	2名/3名	<ul style="list-style-type: none"> ・黒田 潤一郎 (東京大学) ・池田 尚史 (山口大学) 	乗船者決定済
398	Hellenic Arc Volcanic Field	932-Full	2022/12/11-2023/2/10	Tarragona, Spain to Heraklion, Greece	1名/4名	<ul style="list-style-type: none"> ・山本 由弦 (神戸大学) 	分野限定で追加募集、選定中
399	Building Blocks of Life, Atlantis Massif	937-Full2	2023/4/12-6/12	Ponta Delgada to Ponta Delgada, Portugal	1名/3名	<ul style="list-style-type: none"> ・阿部 なつ江 (JAMSTEC) 	乗船者決定済、分野限定で追加募集中
400	NW Greenland Glaciated Margin	909-Full2	2023/8/12-10/12	St. John's to St. John's, Canada	TBD	TBD	乗船者募集中
387	Amazon Margin	859-Full2, 859-PRL & 859-Add2	Postponed	TBD	3名/4名	<ul style="list-style-type: none"> * Gerald Auer (JAMSTEC → University of Graz) ・菊地 一輝 (京都大学) ・戸丸 仁 (千葉大学) * 応募時から乗船時までの間に海外機関へ転出 	乗船者決定済
388	Equatorial Atlantic Gateway	864-Full2 & 864-Add	Postponed	TBD	3名/4名	<ul style="list-style-type: none"> ・安藤 卓人 (北海道大学) ・池田 雅志 (北海道大学) ・鈴木 拓馬 (島根大学) 	航海延期
394	Rio Grande Cone Methane and Carbon Cycling	910-Full2 & 910-Add2	Postponed	TBD	TBD	TBD	航海延期

Mission Specific Platform (ESO)

386	Japan Trench Paleoseismology	835-Full & 866-Full	Offshore: 2021/4/13-6/1 Onshore: 2022/2/14- 3/15	Departure: Yokosuka; Mid cruise port Call, Hachinohe; Return to Yokosuka	Co-chief 1 名 8 名/9 名 (追加募集) ①1 名/1 名 ②1 名/1 名 ③1 名/1 名	<ul style="list-style-type: none"> ・池原 研 (Co-chief /AIST) ・Kanhsi Hsiung (JAMSTEC) * 石澤 堯史 (北海道大学) ・金松 敏也 (JAMSTEC) * 喜岡 新 (九州大学) * 長橋 良隆 (福島大学) * 板木 拓也 (AIST) * Zhirong Cai (京都大学) ・實野 佳奈 (早稲田大学) * 里口 保文 (琵琶湖博物館) * Onshore Science Party Only 	Onshore Science Party 終了
377	Arctic Ocean Paleoceanography (ArcOP)	708-Full & 708-Add	2022/8-9月 延期	TBD	4 名/6 名	<ul style="list-style-type: none"> ・諸野 祐樹 (JAMSTEC) *山本 正伸 (北海道大学) *松崎 賢史 (東京大学) *山口 耕生 (東邦大学) * Onshore Science Party Only 	乗船者決定済
373	Antarctic paleoclimate and ice history from George V Land and Adélie Land shelf sediments	813-Full	TBD	TBD	TBD	TBD	航海延期
389	Hawaiian Drowned Reefs	716-Full2	TBD	TBD	TBD	TBD	航海延期

IODP関連国際会議 2021年度開催実績及び出席者

会議名称	開催日	会場	出席者
EPSP (Environmental Protection & Safety Panel)	2022/2/22-24	ハイブリッド開催 テキサスA&M大学	朴 進午 (東京大学)
CIB (Chikyu IODP Board)	2021/7/13-14	オンライン開催	益田 晴恵 (大阪市立大学)
SEP (Science Evaluation Panel)	2021/7/27-30	オンライン開催	浜田 盛久 (パネル・JAMSTEC)
			川村 喜一郎 (パネル・山口大学) *代理出席
			橋本 善孝 (パネル・高知大学)
			松崎 賢史 (パネル・東京大学)
			山口 耕生 (パネル・東邦大学) ☒
			山本 由弦 (パネル・神戸大学)
			白石 和也 (パネル・JAMSTEC)
	2022/1/12-14	ハイブリッド開催 テキサスA&M大学	橋本 善孝 (パネル・高知大学)
			松崎 賢史 (パネル・東京大学)
			山口 耕生 (パネル・東邦大学) ☒
			山本 由弦 (パネル・神戸大学)
			白石 和也 (パネル・JAMSTEC)
			針金 由美子 (パネル・産業技術総合研究所)
			仲田 理映 (パネル・東京大学)
JOIDES Resolution Facility Board	2021/1/23-25	ハイブリッド開催 スクリプス海洋研究所	多田 隆治 (JRFB委員・千葉工業大学)
IODP Forum Meeting & PMO Meeting	2021/4/26, 5/4	オンライン開催	川幡 穂高 (J-DESC会長・東京大学)
			益田 晴恵 (IODP部会長・大阪市立大学)
	2021/10/10-11	ハイブリッド開催 デイ・リンチェイ科学アカデミー	川幡 穂高 (J-DESC会長・東京大学)
			益田 晴恵 (IODP部会長・大阪市立大学)
ECORD Facility board	2021/9/29-30	ハイブリッド開催 トリエステ	山田 泰広 (EFB委員・九州大学)

2022年5月16日

日本地球掘削科学コンソーシアム

ICDP 部会 2021 年度活動報告

ICDP 部会執行委員会

2021年度のICDP部会の活動概要について、下記の通りご報告いたします。

執行委員会の開催・総務関連
<ul style="list-style-type: none"> ・ICDP 部会執行委員会を以下の通り開催した。 第1回：2021年7月12日 第2回：2022年2月21日 第3回：2022年4月26日 ・ICDP 部会規約に従い、必要に応じて執行委員会を適宜開催し、重要事項を検討・実施し、理事会に報告した。
科学戦略関連
地球掘削科学の振興と日本の研究提案力の強化
<ul style="list-style-type: none"> ・2022年3月で期限を迎えた、ICDP への参加に関する、JAMSTEC と GFZ との MoU の更新に向けて、ICDP 参加継続の必要性を説明した要望書を作成し、JAMSTEC に提出した。 ・2020年に実施した、ICDP 掘削提案促進ワークショップ「新たな掘削科学の展望-陸上から海洋まで-」を受けて、採択済みおよび新規提案を目指すテーマごとに担当者を指名し、状況をフォローした。 ・日本からの研究者の ICDP 関連成果の取りまとめを継続した。
財務関連
年度予算の策定・運用
<ul style="list-style-type: none"> ・ICDP 部会の活動予定を踏まえ、適切な年度予算の策定と執行を行った。 ・Web 会議の活用により大幅な経費節減を行った。
外務関連
ICDP に関わる対外的な活動および支援
<ul style="list-style-type: none"> ・ICDP の Assembly of Governors (AOG), Executive Committee (EC), Science Evaluation Group (SAG) の各会議へ出席し、ICDP の国際情勢について情報共有を行うとともに、情報を分析して J-DESC の活動に反映した。 ・SAG 等の ICDP 国際委員候補者の検討を行い、候補者リストを更新した。
国内外コミュニティの交流・連携促進

- ・ COVID-19 禍において対面での交流が難しい状況ではあるが、日本地球惑星科学連合 2021 年大会にてオンラインで「地球掘削科学」セッションを開催し、地球掘削科学の裾野拡大に努めた。

広報・教育関連

新規活動の創出・企画の検討

- ・ 会員機関の相互連携による研究教育資源の有効活用（単位認定制度）について意見交換を行った。
- ・ 一般への理解増進のため、J-DESC 主催のシンポジウム「地球掘削科学の近未来の課題：人新世の未来に向けて」を 3 月 14 に東京で実施し、オンラインで配信した。また、シンポジウムで上映する、掘削科学の取り組む課題を紹介する映像コンテンツの制作を行った。

出版物等

- ・ ICDP サイエンスプランの日本語版作成に向けた準備を行った。
- ・ J-DESC Newsletter vol. 14（日本語）電子版発行（2021 年 5 月）
- ・ J-DESC Newsletter vol. 15（日本語）電子版の発行に向けた原稿準備
- ・ メールニュース「J-DESC Update」による各種最新情報の提供
- ・ J-DESC ホームページ及び Facebook ページの効果的活用

収支計算書

2021年 4月 1日から2022年 3月31日まで

日本地球掘削科学コンソーシアム

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
【収入の部】				
年会費	3,855,000	3,798,000	57,000	
正会員	3,040,000	2,980,000	60,000	
正会員A	2,200,000	2,200,000	0	会費納入率 100%
正会員B	840,000	780,000	60,000	会費納入率 92%
個人会員	15,000	18,000	-3,000	会費納入率 85%
賛助会員	800,000	800,000	0	会費納入率 100%
雑収入	0	74	-74	
収入計	3,855,000	3,798,074	56,926	
【支出の部】				
共通経費	3,026,172	1,044,285	1,981,887	
会員提案型活動経費	300,000	0	300,000	
広報活動費	321,172	203,372	117,800	
コアスクール開催費	1,355,000	60,000	1,295,000	
会議開催費	60,000	8,800	51,200	
通信費	30,000	7,660	22,340	
雑費	70,000	35,963	34,037	残高証明、振込手数料等
謝金	60,000	0	60,000	
事務局業務委託費	525,000	484,862	40,138	
事務局会計業務費	5,000	0	5,000	
掘削提案・成果促進支援費	150,000	20,000	130,000	
SCORE関連支援費	150,000	223,628	-73,628	
理事会活動経費	510,000	62,188	447,812	
理事会活動経費	500,000	61,528	438,472	
雑費	10,000	660	9,340	
I O D P 部会経費	378,200	0	378,200	
執行部会活動経費	358,200	0	358,200	
雑費	20,000	0	20,000	
I C D P 部会経費	277,000	0	277,000	
執行部会活動経費	270,000	0	270,000	
雑費	7,000	0	7,000	
支出計	4,191,372	1,106,473	3,084,899	
当期収支差額	-336,372	2,691,601	-3,027,973	
前期繰越収支差額	12,330,237	12,330,237	0	
次期繰越収支差額	11,993,865	15,021,838	-3,027,973	

貸借対照表

2022年 3月31日現在

日本地球掘削科学コンソーシアム

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	15,022,706	12,330,425	2,692,281
流動資産合計	15,022,706	12,330,425	2,692,281
資産合計	15,022,706	12,330,425	2,692,281
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	868	188	680
流動負債合計	868	188	680
負債合計	868	188	680
III 正味財産の部			
正味財産合計	15,021,838	12,330,237	2,691,601
負債及び正味財産合計	15,022,706	12,330,425	2,692,281

日本地球掘削科学コンソーシアムの2021年度決算書類を監査した結果
その処理は適正であったことをここに報告します。

2022/5/9

監事 篠野 進 

監事

貸借対照表

2022年 3月31日現在

日本地球掘削科学コンソーシアム

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	15,022,706	12,330,425	2,692,281
流動資産合計	15,022,706	12,330,425	2,692,281
資産合計	15,022,706	12,330,425	2,692,281
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	868	188	680
流動負債合計	868	188	680
負債合計	868	188	680
III 正味財産の部			
正味財産合計	15,021,838	12,330,237	2,691,601
負債及び正味財産合計	15,022,706	12,330,425	2,692,281

日本地球掘削科学コンソーシアムの2021年度決算書類を監査した結果
その処理は適正であったことをここに報告します。

2022年5月9日

監事

小村健太郎 

監事

財産目録

2022年 3月31日現在

日本地球掘削科学コンソーシアム

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	金額
(流動資産)	預金	ゆうちょ銀行振替口座	7,056,844
		三井住友/大塚	7,965,862
流動資産合計			15,022,706
資産合計			15,022,706
(流動負債)	未払金		868
流動負債合計			868
負債合計			868
正味財産			15,021,838

日本地球掘削科学コンソーシアム 役員

2021 年度	2022 年度
<p>会長: 川幡 穂高 (東京大学 大気海洋研究所)</p> <p>IODP 部会長: 益田 晴恵 (大阪市立大学 大学院理学研究科生物地球系専攻)</p> <p>ICDP 部会長: 藤原 治 (産業技術総合研究所 地質調査総合センター)</p> <p>理事: 氏家 恒太郎 (筑波大学 生命地球科学研究群地球科学学位プログラム) 木下 正高 (東京大学 地震研究所) 清川 昌一 (九州大学大学院 理学研究院地球惑星科学部門) 黒田 潤一郎 (東京大学 大気海洋研究所) 黒柳 あずみ (東北大学 学術資源研究公開センター) 坂口 有人 (山口大学 理学部地球圏システム科学科) 島 伸和 (神戸大学) 林 為人 (京都大学 大学院工学研究科都市社会工学専攻地球資源学講座) 道林 克禎 (名古屋大学 地球環境科学専攻関連講座) 森下 知晃 (金沢大学 理工研究域地球社会基盤学系) 諸野 祐樹 (海洋研究開発機構 超先鋭研究開発部門)</p> <p>監事: 海野 進 (金沢大学 理工研究域地球社会基盤学系) 小村 健太郎 (防災科学技術研究所 地震津波防災研究部門)</p>	<p>会長: 川幡 穂高 (東京大学 大気海洋研究所)</p> <p>IODP 部会長: 益田 晴恵 (大阪市立大学 (現大阪公立大学) 理学研究科)</p> <p>ICDP 部会長: 藤原 治 (産業技術総合研究所 地質調査総合センター)</p> <p>理事: 池原 実 * (高知大学 海洋コア総合研究センター) 石橋 純一郎 * (神戸大学) 氏家 恒太郎 (筑波大学 生命地球科学研究群地球科学学位プログラム) 木下 正高 (東京大学 地震研究所) 黒田 潤一郎 (東京大学 大気海洋研究所) 黒柳 あずみ (東北大学 学術資源研究公開センター) 島 伸和 (神戸大学) 針金 由美子 * (産業技術総合研究所 地質調査総合センター) 森下 知晃 (金沢大学 理工研究域地球社会基盤学系) 諸野 祐樹 (海洋研究開発機構 超先鋭研究開発部門) 山口 飛鳥 * (東京大学 大気海洋研究所)</p> <p>監事: 海野 進 (金沢大学 理工研究域地球社会基盤学系) 小村 健太郎 (防災科学技術研究所 地震津波防災研究部門)</p>

※ * は新任

IODP 部会 執行体制

2021 年度	2022 年度
<p>部会長: 益田 晴恵 (大阪市立大学 大学院理学研究科生物地球系専攻)</p> <p>部会長補佐: 池原 実 (高知大学 海洋コア総合研究センター) 木下 正高 (東京大学 地震研究所)</p> <p>部会執行委員: 池原 実 (高知大学 海洋コア総合研究センター) 石橋 純一郎 (神戸大学) 北村 真奈美 (産業技術総合研究所) 瀨瀬 佑衣 (名古屋大学) 齋藤 めぐみ (国立科学博物館) 柵山 徹也 (大阪市立大学) 沢田 健 (北海道大学) 中村 恭之 (海洋研究開発機構) 中東 和夫 (東京海洋大学) 針金 由美子 (産業技術総合研究所) 村山 雅史 (高知大学) 山中 寿朗 (東京海洋大学)</p> <p>専門部会長: 掘削航海:成瀬 元 (京都大学)</p> <p>科学推進:戸丸 仁 (千葉大学)</p>	<p>部会長: 益田 晴恵 (大阪市立大学 (現大阪公立大学) 理学研究科)</p> <p>部会長補佐: 池原 実 (高知大学 海洋コア総合研究センター) 針金 由美子 (産業技術総合研究所)</p> <p>部会執行委員: 大坪 誠 * (産業技術総合研究所) 北村 真奈美 (産業技術総合研究所) 瀨瀬 佑衣 (名古屋大学) 齋藤 めぐみ (国立科学博物館) 柵山 徹也 (大阪公立大学) 沢田 健 (北海道大学) 白石 史人 * (広島大学) 鈴木 紀毅 * (東北大学) 戸丸 仁 * (千葉大学) 中東 和夫 (東京海洋大学) 中村 恭之 (海洋研究開発機構) 成瀬 元 * (京都大学) 浜橋 真理 * (山口大学)</p> <p>専門部会長: 掘削航海:成瀬 元 (京都大学)</p> <p>科学推進:戸丸 仁 (千葉大学)</p>

※ * は新任

ICDP 部会 執行体制

2021 年度	2022 年度
<p>部会長： 藤原 治 (産業技術総合研究所 地質調査総合センター)</p> <p>部会長補佐： 佐野 貴司 (国立科学博物館)</p> <p>部会執行委員： 浅沼 宏 (産業技術総合研究所) 大坪 誠 (産業技術総合研究所) 小野 重明 (海洋研究開発機構) 掛川 武 (東北大学) 後藤 和久 (東京大学) 佐野 貴司 (国立科学博物館) 高澤 栄一 (新潟大学) 中川 毅 (立命館大学) 橋本 善孝 (高知大学) 矢部 康男 (東北大学)</p>	<p>部会長： 藤原 治 (産業技術総合研究所 地質調査総合センター)</p> <p>部会長補佐： 佐野 貴司 (国立科学博物館)</p> <p>部会執行委員： 浅沼 宏 (産業技術総合研究所) 大坪 誠 (産業技術総合研究所) 岡崎 啓史 * (広島大学) 掛川 武 (東北大学) 後藤 和久 (東京大学) 佐野 貴司 (国立科学博物館) 谷川 亘 * (海洋研究開発機構) 橋本 善孝 (高知大学) 矢部 康男 (東北大学) 山田 和芳 * (早稲田大学) 山田 泰広 * (九州大学)</p>

※ * は新任

専門部会体制

2021 度	2022 年度
<p>掘削航海専門部会</p> <p>専門部会長： 成瀬 元 (京都大学)</p> <p>専門部会委員： 池原 実 (高知大学) 大坪 誠 (産業技術総合研究所) 鈴木 紀毅 (東北大学) 山田 泰広 (九州大学) 井尻 暁 (神戸大学) 亀尾 浩司 (千葉大学) 草野 有紀 (産業技術総合研究所)</p>	<p>掘削航海専門部会</p> <p>専門部会長： 成瀬 元 (京都大学)</p> <p>専門部会委員： 井尻 暁 (神戸大学) 亀尾 浩司 (千葉大学) 草野 有紀 (産業技術総合研究所) 濱田 洋平 (海洋研究開発機構) *</p> <p>他、数名調整中</p>
<p>科学推進専門部会</p> <p>専門部会長： 戸丸 仁 (千葉大学)</p> <p>専門部会委員： 東 龍介 (東北大学) 安間 了 (徳島大学) 白石 史人 (広島大学) 鶴 哲郎 (東京海洋大学) 林 広樹 (島根大学) 望月 公廣 (東京大学 地震研究所) 山口 飛鳥 (東京大学 大気海洋研究所) 守屋 和佳 (早稲田大学) 針金 由美子 (産業技術総合研究所) 井尻 暁 (神戸大学) 鈴木 庸平 (東京大学)</p>	<p>科学推進専門部会</p> <p>専門部会長： 戸丸 仁 (千葉大学)</p> <p>専門部会委員： 悪原 岳 (東京大学 地震研究所) * 井尻 暁 (神戸大学) 氏家 恒太郎 (筑波大学) * 奥村 知世 (高知大学) * 鈴木 庸平 (東京大学) 千代延 俊 (秋田大学) * 針金 由美子 (産業技術総合研究所) 望月 公廣 (東京大学 地震研究所) 守屋 和佳 (早稲田大学) 山口 飛鳥 (東京大学 大気海洋研究所) 山中 寿朗 (東京海洋大学) *</p>

※ * は新任

2022年5月16日

日本地球掘削科学コンソーシアム
2022年度活動方針（案）

日本地球掘削科学コンソーシアム理事会

日本地球掘削科学コンソーシアムの基本的活動を発展させ、国際深海科学掘削計画（IODP）、国際陸上科学掘削計画（ICDP）に関係した国内外の情勢変化を考慮して、柔軟かつ戦略的な活動を行う。特に、コンソーシアム参加機関との協力を強化する。

理事会の開催
J-DESC 規約に従い、必要に応じて理事会を適宜開催し、重要事項の審議・決定を行う。
総務関連
J-DESC の組織運営に関する検討
J-DESC の組織運営について、効率的かつ効果的な運営を目指し、部会やタスクフォースなどを含めた組織及びその規約等について俯瞰し、整理や見直しが必要な個所についての検討及び最適化を図る。
J-DESC の活動活性化に関する検討
地球掘削科学研究における新しい形の活動、国際連携について模索・検討するほか、将来の地球掘削科学を担う人材および一般への認知拡大を含めた J-DESC の活動活性化の形について様々な方面を視野に入れ検討を進める。科学戦略、財務、外務、広報・教育の各会務の連携を図り、会員へのサービスや組織の活性化に資する効果的な活動を維持・推進する。特に、構築から年月が経ち情報わかりづらくなっているホームページのリニューアルを行う。また、国連海洋科学の 10 年に活動を登録し、コミュニティ内外に対する認知向上を目指す。
科学戦略関連
地球掘削科学の振興と日本の研究提案力の強化

IODP やICDP の将来計画において、世界をリードする日本の方針を打ち出す。特に IODP に関しては海洋科学掘削 2050 サイエンスフレームワークの実現に向けた実施計画を提案していく。また、それを支える健全で活力ある科学コミュニティを維持・拡大する。新たな科学アイデアの発掘・育成や、新規掘削提案の作成を増進する支援を実施する。これらの目的に合致する集会・シンポジウム等を積極的に企画する。
財務関連
年度予算の策定・運用
J-DESC の財政及び活動予定を踏まえ、適切な年度予算を策定し、限られた予算の効果的な運用を行うとともに、収入を維持・拡大するために必要な施策を提案する。
外務関連
掘削プロジェクトや国際ワークショップへの研究者の参加、国際委員の推薦・参加、国内外コミュニティの交流・連携促進等を行う。また、新たに策定した IODP/ICDP の将来計画の実現に向けた対外的な活動を積極的に行う。IODP に関しては、掘削科学研究やコミュニティの維持・発展のため、post-IODP における国際連携の枠組み再構築を主導し、国際的な連携の強化を図る。さらに、国内外の情勢を分析し、積極的・効果的にコミュニティへ情報展開を行う。2021 年度に文部科学省、海洋研究開発機構、高知大学に提出した「地球システムの理解に向けた国際海洋科学掘削研究の推進（要望書）」の英語版を作成し、国際的にも発信する。また、国際的合意に基づき、国内の掘削予算や運航の確保のために関係機関に積極的に働きかける。
広報・教育関連
コミュニティの持続的な発展・拡大を目指す戦略的な広報・教育活動
COVID-19 により対面での実施が難しい状況および対面での活動を再開できる状況の両方を見据えた、各種普及・広報・教育活動の展開を行う。また、会員機関の相互連携による研究教育資源の有効活用を進める。 上記をふまえ、特に以下の事項を強化する。 ・ COVID-19 を契機とした教育のデジタル化にマッチした情報発信を行う。YouTube コンテンツ等の充実や国際を意識した英語版の映像コンテンツの制作を行う。 ・ スクールやワークショップ、SCORE 教育乗船枠等による若手育成・研究コミュニティの底辺拡大を図る。また、関連機関が主催するスクール等への参加支援制度を新たに設ける。 ・ 各種メディアを活用した国内外への普及・広報活動を展開する。

2022年5月16日

日本地球掘削科学コンソーシアム IODP 部会
2022年度活動方針（案）

IODP 部会執行委員会

J-DESC 理事会・ICDP 部会と連携し、IODP 部会の基本的活動を維持発展しつつ、国際深海科学掘削計画（IODP）に関する国内外の情勢変化に対応しながら、2020年度に承認された Science Framework に基づいて、新規活動を創出・企画する。

執行委員会の開催・総務関連

IODP 部会規約に従い、必要に応じて執行委員会を適宜開催し、重要事項の検討を行い、検討結果を理事会に報告する。

掘削航海専門部会、科学推進専門部会の専門部会長を執行委員とし、連携をより円滑に行う。

科学戦略関連

健全で活力ある科学コミュニティの維持・拡大

・2020年に発行された科学海洋掘削 2050 サイエンスフレームワークに基づいた掘削提案をコミュニティに積極的に働きかける。

・Post-IODP に関する情報共有、及び今後の掘削提案について科学的な見地から議論を行うためのワークショップを開催する。

・J-DESC 会員や国内研究者コミュニティに対して、SCORE の周知活動を強化し、SCORE への掘削提案を奨励する。

・高知コアセンターとの協働によりレガシーコア・データを活用する国際共同研究の枠組みを検討し、掘削科学コミュニティの新たな支援策を整備する。

新たな科学アイデアの発掘・育成や、航海参加促進

・日本地球惑星科学連合 2023 年大会で「地球掘削科学」セッションを提案する。

・掘削航海専門部会と連携を密にし、IODP 航海への乗船応募の促進を図る。また、乗船する学生へのサポートを充実させる。

外務関連

IODP に関わる対外的な活動および支援
<ul style="list-style-type: none"> ・ Post-IODP のプログラムに関して、理事会および JAMSTEC 等と協力して、欧州海洋研究掘削コンソーシアム (ECORD) と MoU を締結するための会議開催と手続きを行う。 ・ SEP (Science Evaluation Panel) 等のパネル委員の公募、推薦を行う。 ・ SEP、JOIDES Resolution Facility Board、ECORD Facility Board、IODP Forum の 4 種類の IODP 国際会議に委員・オブザーバーを送る。
広報・教育関連
<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティの持続的な発展・拡大を目指す戦略的な広報・教育活動を行う。
新規活動の創出・企画の検討
<ul style="list-style-type: none"> ・ 他機関が主催する地球掘削科学に関するスクール等への参加を積極的に支援する。 ・ IODP 航海に応募する大学院生の評価、支援について規則を作成する。
学会等における広報活動
<ul style="list-style-type: none"> ・ 理事会と協力し、日本地球惑星科学連合 2022 年大会・日本地質学会の大会などへ出展し、IODP の活動を広報する。
若手育成・研究コミュニティの底辺拡大
<ul style="list-style-type: none"> ・ SCORE 教育乗船枠制度の改善を行い、大学院生の参加を促す。 ・ 高知コアセンターでのレガシーコアサンプリングのための学生旅費支援制度をさらに使いやすいものとするために、運用法の改善に関して検討する。 ・ コアスクールを行う。
出版物等・普及活動・アウトリーチなど
<ul style="list-style-type: none"> ・ J-DESC Newsletter の発行に協力する。 ・ メールニュース「J-DESC Update」・J-DESC ホームページ及び Facebook ページ・YouTube J-DESC Channel などの IT メディアを用いた広報活動に協力する。 ・ 関係機関による IODP 航海やその研究成果に関するプレスリリースへ協力する。 ・ J-DESC ホームページの改訂に協力する。

2022年5月16日

日本地球掘削科学コンソーシアム ICDP 部会
2022年度活動方針（案）

ICDP 部会執行委員会

J-DESC 理事会・IODP 部会と連携し、ICDP 部会の基本的活動を継承しつつ、ICDP Science Plan など国内外の情勢変化に柔軟に対応した活動を創出・企画する。特に、コンソーシアム参加機関との協力を強化する。

執行委員会の開催・総務関連
ICDP 部会規約に従い、必要に応じて執行委員会を適宜開催し、重要事項を検討・実施し、理事会に報告する。
科学戦略関連
地球掘削科学の振興と日本の研究提案力の強化
<ul style="list-style-type: none"> ・日本発の ICDP プロジェクト実現に向け、新たな科学アイデアの発掘・育成や、新規掘削提案の作成・強化のための支援を実施する。これらの目的に合致する集会・シンポジウム等を積極的に企画する。 ・日本地球惑星科学連合 2022 年大会で「地球掘削科学」セッションを開催し、2023 年大会のセッション提案を行う。 ・新 ICDP サイエンスプランに対応して、日本の特性をいかした方針・提言を発信する。 ・ICDP プロジェクト、陸上科学掘削プロジェクトへの日本からの研究者参加の支援を行う。 ・日本の研究者が関わった ICDP 関連成果の取りまとめと広報を実施する。 ・掘削提案サポート（j-watch；(SAG 経験者のアドバイス)）を新設する。
財務関連
<ul style="list-style-type: none"> ・ICDP 部会の活動予定を踏まえ、適切な年度予算を策定し、限られた予算の効果的な運用を行う。 ・会員提案型活動経費への募集・選定・採択を適正に行い、各種会員活動を活性化させる。

外務関連
ICDP に関わる対外的な活動および支援
<ul style="list-style-type: none"> ・ ICDP の Assembly of Governors (AOG), Executive Committee (EC), Science Evaluation Group (SAG)の各会議へ出席し、ICDP の国際情勢について情報共有を行うとともに、情報を分析して J-DESC の活動に反映する。 ・ SAG 等の ICDP 国際委員候補者の戦略的な検討を行う。 ・ 2022 年度に更新した MoU に基づき、継続的に ICDP を牽引し、参加主要国として、日本発の掘削提案書の増進に努める。
国内外コミュニティの交流・連携促進
<ul style="list-style-type: none"> ・ COVID-19 禍においても可能な、J-DESC タウンホールミーティング等のコミュニティの交流促進イベントの検討を行う。
広報・教育関連
過去の成果の幅広い広報、新規活動の創出・企画の検討
<ul style="list-style-type: none"> ・ ニューノーマルの社会を見据えた教育のデジタル化にマッチした情報発信および実際に体験する実習等の価値の発信を行う。 ・ 学会等の機会をとらえた広報活動を実施する。 ・ 会員機関の相互連携による研究教育資源の有効活用（単位認定制度）を推進する。 ・ スクールやワークショップ等による若手育成・研究コミュニティの底辺拡大を行う。 ・ 各種メディアを活用した国内外への普及・広報活動を行う。 ・ ホームページに、過去の成果の簡潔な紹介や一般図書の掲載を行う。
出版物等
<ul style="list-style-type: none"> ・ J-DESC Newsletter vol. 15（日本語）電子版を発行する。（2022 年 5 月） ・ J-DESC Newsletter vol. 16（日本語）電子版の原稿準備を行う。 ・ その他、J-DESC の目的・活動に合致するものを適宜実施する。

日本地球掘削科学コンソーシアム2022年度予算(案)

(単位:円)

科 目	2021年度		2022年度	備 考
	予算額	決算額	予算案	
【収入の部】				
年会費	3,855,000	3,798,000	3,758,000	昨年比97,000円減
正会員	3,040,000	2,980,000	3,040,000	
正会員A	2,200,000	2,200,000	2,200,000	100,000円×22団体
正会員B	840,000	780,000	840,000	30,000円×28団体
個人会員	15,000	18,000	18,000	3,000円×6名
賛助会員	800,000	800,000	700,000	100,000円×5団体 200,000円×1団体
雑収入	0	74	0	
当期収入合計	3,855,000	3,798,074	3,758,000	
前年度繰越金	12,330,237	12,330,237	15,021,838	
収入合計	16,185,237	16,128,311	18,779,838	
【支出の部】				
1 共通経費	3,026,172	1,044,285	7,420,172	
会員提案型活動経費	300,000	0	300,000	
広報活動費	321,172	203,372	4,515,172	J-DESCウェブサイトのリニューアル、シンポジウム開催、ICDPサイエンスプラン(日本語版)冊子
コアスクール開催費	1,355,000	60,000	1,355,000	2021年度はSCORE教育乗船枠に係る費用の一部を支出。2022年度は微化石、基礎、同位体、ロギング、古地磁気、岩石の各コース実施を見込んだ予算額
会議開催費	60,000	8,800	60,000	2021年度は電子投票システム利用料として支出
通信費	30,000	7,660	30,000	
雑費	70,000	35,963	70,000	
謝金	60,000	0	60,000	
事務局業務委託費	525,000	484,862	525,000	
事務局会計業務費	5,000	0	5,000	
掘削提案・成果促進支援費	150,000	20,000	200,000	
SCORE関連支援費	150,000	223,628	300,000	
2 理事会活動経費	510,000	62,188	660,000	
理事会活動経費	500,000	61,528	650,000	
雑費	10,000	660	10,000	
3 IODP部会活動経費	378,200	0	528,000	
執行部会活動経費	358,200	0	508,000	
雑費	20,000	0	20,000	
4 ICDP部会活動経費	277,000	0	427,000	
執行部会活動経費	270,000	0	420,000	
雑費	7,000	0	7,000	
当期支出合計	4,191,372	1,106,473	9,035,172	
当期収支差額	-336,372	2,691,601	-5,277,172	
前期繰越収支差額	12,330,237	12,330,237	15,021,838	
次年度繰越金(見込)	11,993,865	15,021,838	9,744,666	
支出合計	16,185,237	16,128,311	18,779,838	

日本地球掘削科学コンソーシアム会員リスト（令和4年5月現在）

正会員：50 賛助会員：6 個人会員：6

No.	会員機関名（正会員）
1	秋田大学 国際資源学部
2	茨城大学 理学部
3	宇都宮大学 地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科岩盤工学研究室
4	愛媛大学 理学部 地学コース
5	大阪公立大学 理学研究科
6	岡山大学 理学部 地球科学科
7	岡山理科大学 古生物学・年代学研究センター
8	海洋研究開発機構 海域地震火山部門
9	海洋研究開発機構 海洋機能利用部門
10	海洋研究開発機構 超先鋭研究開発部門
11	鹿児島大学 大学院理工学研究科 理学専攻 地球科学プログラム
12	金沢大学 理工研究域地球社会基盤学系
13	北見工業大学 環境・エネルギー研究推進センター
14	九州大学 大学院理学研究院 地球惑星科学部門
15	九州大学 大学院工学研究院 地球資源システム工学部門
16	九州大学 大学院比較社会文化研究院 地球変動講座
17	京都大学 大学院工学研究科 都市社会工学専攻 地球資源学講座
18	京都大学 大学院理学研究科 地球惑星科学専攻
19	京都大学防災研究所 地震防災研究部門
20	熊本大学 理学部 地球科学科
21	高知大学 海洋コア総合研究センター
22	神戸大学
23	国立科学博物館
24	国立極地研究所
25	産業技術総合研究所 地質調査総合センター
26	島根大学 総合理工学部 地球科学科
27	信州大学 理学部
28	千葉大学 大学院理学研究院 地球科学研究部門
29	筑波大学 生命地球科学研究群地球科学学位プログラム
30	東海大学 海洋学部
31	東京海洋大学 海洋資源環境学部
32	東京大学地震研究所
33	東京大学 大学院理学系研究科
34	東京大学大気海洋研究所
35	同志社大学 理工学部 環境システム学科
36	東北大学 大学院環境科学研究科
37	東北大学 大学院理学研究科/学術資源研究公開センター
38	徳島大学 環境防災研究センター
39	富山大学 理学部自然環境科学科
40	富山大学都市デザイン学部地球システム科学科
41	名古屋大学 地球環境科学専攻関連講座/地震火山研究センター/宇宙地球環境研究所/名古屋大学博物館
42	新潟大学 理学部/大学院自然科学研究科
43	兵庫県立大学 大学院生命理学研究科 地球科学講座
44	日本大学 文理学部 地球科学科
45	広島大学 大学院 先進理工系科学研究科
46	防災科学技術研究所
47	北海道大学 大学院理学研究院/地球環境科学研究院/低温科学研究所
48	山形大学 理学部 地球科学コース
49	山口大学 理学部 地球システム圏科学科
50	琉球大学 理学部
No.	会員機関名（賛助会員）
1	エスケイエンジニアリング株式会社
2	株式会社クリステンセン・マイカイ
3	シュルンベルジェ株式会社
4	日鉄鉱コンサルタント株式会社
5	ハリバートン・オーバーシイズ・リミテッド
6	株式会社マリン・ワーク・ジャパン